

庶務幹事この一年

木村洋昭 (高輝度光科学研究センター)

「気兼ねなく仕事を頼める人を庶務幹事に」と前会長に助言頂いたので、あなたにお願いしたい」という電話を水木会長からいただき、これは光栄と思っていいのか良くわからないぞと思いつつながら、お引き受けすることにしました。

その後、原田前庶務幹事から過去資料 CD と虎の巻ファイル (特に百生前々庶務幹事執筆の幹事マニュアルは秀作です。) を受け取り 1 時間程度の説明を受けたのですが、まだ雲をつかむ様な感じでした。そもそも学会幹事は学会内情をよく知っている評議員経験者から選ばれるものと考えていたのですが、今年は水木会長のなるべく新しい風を入れたいという意向で、3 人の幹事が評議員未経験者です。9 月末に行われた前幹事会との引き継ぎの打合わせは長時間になりましたが、基本的なところから前幹事の皆様にご教示いただきました。

庶務幹事の主な仕事はまず年 4 回の評議員会の準備という事になりますが、昨年度はそのほかに学会会計を如何に健全な方向に持って行く方策を会計幹事と相談の上でいろいろ行いました。過去の決算書を読み込んでいくと、1. その年の会費未収金とその前年の会費未収金の差額 (どちらも実際のお金は動いていない) を収入に計上している、2. 実際に資産価値のない学会誌在庫や電話加入権など 356 万円が資産に含まれている、という事がわかりました。そこで、2011 年度決算は会計基準を変更し、実際の会費収入だけを収入に計上する、資産価値のない項目は固定資産の別帳に移し現金や口座にある流動資産だけを剰余金とすることにしました。これにより、剰余金は 779 万円減少して 439 万円になりましたが、全て現金化できる資産の額であり当学会の実際の実力を現しています。又、会費の未収

金徴収にも力を入れ、評議員会ごとに会費 2 年未払い者リストを提出し支払いの催促をお願いしたりすることで (未払い者リストを学会年会で掲示するという案は却下されました) かなり徴収率が上がりました。他に、事務局に幹事も確認できる Free の会計ソフトの導入をしていただきまして、2012 年度の決算は大分楽にできたようです。

学会誌の出版経費節減の為に打ち出された学会誌の完全電子化・冊子印刷廃止の方針ですが、最近の試算によると完全電子化で学会誌の広告収入がまったくなくなるとすると、むしろ出版経費がより多くなる事がわかってきました。学会誌の冊子印刷廃止は、もちろん経費節減の為に苦渋の選択であるのですが、このまま完全電子化するとむしろ経費節減にはならない、本末転倒になる事になります。そこで、完全電子化の中での HP でのバナー広告・学会からのメールの文末広告・学会誌記事への広告の挿入等、既に完全電子化を行った他学会 (例えば触媒学会) を参考に、広告収入の道筋をある程度立ててから先に進む (冊子印刷継続も選択肢としてあり得る) 事とし、完全電子化スケジュール予定を 1 年遅らせて 2015 年 1 月とすることにしました。

ところでアリ派の方々がそろっていた前年度の尾嶋前会長・幹事の皆様と違い、今年度は一人を除いてキリギリス派なので、なかなか評議員会の資料準備が進まず、事前配布資料の案内がいつも評議員会 3 日前になってしまっている事は申し訳なく思っております。

この 1 年、影の庶務幹事と言われる事務局の佐藤さん、西野さんには大変お世話になりました。感謝します。皆様、新しい一年もどうかよろしく申し上げます。

行事幹事この一年

松田 巖 (東京大学物性研究所)

2011年10月より行事幹事に就任し、はや1年が過ぎました。2011年度に実施した放射光学会の主要な行事は第25回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム(JSR12)、第4回若手研究会、第4回放射光基礎講習会でした。佐賀県鳥栖市は鳥栖市民文化会館・中央公民館での開催で、木村滋組織委員長(前行事幹事)、平井康晴実行委員長、小林英一実行副委員長、岡島敏浩プログラム委員長のご尽力により、594名の参加者を得て大成功裡に終えることができました。組織委員会、実行委員会の皆様には厚く御礼申し上げます。

若手研究会と放射光基礎講習会は、若手研究者の育成と潜在的放射光ユーザーの掘り起こしを目的に2009年度から始まった行事で、いずれも8月に第4回として実施致しました。参加者は若手研究会では68名、基礎講習会では102名と、いずれも盛況でした。若手研究会では応募提案の中から矢治光一郎会員(東京大学)と宮本幸治会員(広島大学)の研究会案「表面電子のスピンが生み出す物理の最前線-ラッシュバ効果、トポロジカル絶縁体-」が採択されました。東京大学で開催された研究会では参加者の1/3以上が放射光未経験者であり、放射光分光の若手研究者と活発な議論を交わしていました。一方、基礎講習会と

しては、今年度は「やさしい現代放射光科学講座」というタイトルで東京大学にて開催され、学部生、大学院生、そして企業の若手研究者を中心に多くの会員の方々に参加していただきました。光源、ビームライン、実験技術の基礎から最先端研究まで幅広く講義内容として取り上げ、各講師の先生方には素晴らしいご講義をしていただきました。若手研究会と放射光基礎講習会の開催については、行事委員会の皆様に大変頑張っていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

さて、年明け1月には第26回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム(JSR13)が名古屋大学で開催されます。これが、私が組織委員長として開催する最初のものとなります。不慣れな組織委員長を、経験豊かな竹田美和実行委員長と加藤政博プログラム委員長にご支援いただき、順調に準備が進んでおります。また、JSR13の期間中に市民公開講座も放射光学会が主催となって開催します。会員の皆様におかれましては、是非ともご参加いただきJSR13を盛り上げて頂きたい存じます。

最後になりましたが、この1年間の会員の皆様のご協力に感謝するとともに、引き続き、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。

編集幹事この一年

玉作賢治 (理化学研究所)

この1年間の活動を御報告します。昨年10月に前任の足立伸一氏(KEK)より編集幹事を引き継ぎ、11名の新編集委員を加えて、計21名で編集委員会を組織しました。既に2012年1月号より冊子体の2色化、2014年1月号より冊子体廃止の方針が示されておりましたので、通常の編集作業と並行して、これらの準備を進める必要がありました。様々な案件を効率的に処理するために、少人数のワーキンググループ(WG)を立ち上げました。WGでは想定される問題点や採りうる解決策を集中的に検討し、その上で編集委員会にて議論してきました。このようなWGは、2色化検討WG(藤森委員、他3名)、電子化検

討WG(松下委員、他3名)、試料環境シリーズ(舟越委員、他2名)、XFEL特集号(登野委員、他1名)の4つです。

まず、冊子体の2色化は2012年5月号に行いました。予定より2号遅れましたが、これは既に執筆依頼済みの記事があったこと、および2色刷りの図の作成・入稿方法に関するルール作りに時間がかかったことが原因です。2色化により近年の懸案であった学会誌の出版費用は、これまでの約7割に抑えることが出来ました。また、カラーの図を掲載するオンライン版の利便性を向上させるために、ホームページのパスワードを会員の皆様にメールに

て毎号お知らせするようにしました。

2色化と並行して、冊子体の廃止と電子化について議論を進めて来ました。しかし、完全なオンライン化には、学会ホームページの改善が不可欠との結論に至りました。現在、渉外委員会とも議論を開始したところです。このため全体的に計画が遅れ気味です。

さて、お気づきになられた会員もいらっしゃるかと思いますが、学会誌は毎号テーマを決めて小特集形式で進めています。つまり、分光法(5月号)地震(7月号)、時分割(9月号)、はやぶさ(11月号)です。今後も、単粒子構造解析(1月号)、触媒・元素戦略(3月号)が計画されております。これは物理的に1冊にまとまっていると

いう冊子体の長所を追求したいという方針に依ります。ところで編集委員会は各分野の専門家により構成されているとはいえ、放射光学会のカバーする分野は非常に広く、十分な情報を収集することは困難です。会員の皆様の興味のあるテーマや記事などについてお気軽に近くの編集委員にご連絡頂けるとより充実した学会誌になるかと思えます。

最後に、前期の編集委員を務められた高田恭孝氏(理研)と永園充氏(理研)がご逝去されました。通常の編集作業に加えて、高田氏は試料環境シリーズの立ち上げに、また永園氏は「EUV SASE-FELの利用の展開」特集号の取りまとめにご尽力されました。ここにお二人の功績を記すと共に、ご冥福をお祈り致します。

渉外幹事この一年

若槻壮市(高エネルギー加速器研究機構)

水木会長から放射光学会渉外幹事を依頼されたときには、KEKでの仕事、ライフサイエンス関係国家プロジェクト等の仕事でとても身動きできない状況で、幹事会に出席するのも難しい状況となることが予想されるのでと辞退させていただいたのですが、学会のために「シニア(?)幹事として」是非尽力してほしいという会長の数度にわたる依頼があり、お引き受けすることになり早一年がたちました。恐れていた通り、他の幹事の先生方が大変熱心な活動を展開される中、渉外幹事の方は当初の方針の数分の一も仕事をこなせずここまで来てしまいました。渉外幹事の仕事は、学会と外の組織とのリエゾンという役割が多く、他学会からの協賛依頼、人事関連の記事掲載についての決済が日常的にあるなか、学術会議の関連の委員会に会長の代理として出席することもありました。実は今年度のもっとも大きな仕事は、渉外委員会を(再び)立ち上げ、編集委員会が進めている学会誌の電子化に伴う学会ホームページの改訂を行うということでした。水木会長からはこの話は渉外幹事依頼の際全く聞いておらず、学会ホームページ改訂は渉外幹事の担当外ではないでしょうか、と若干の抵抗を試みたものの、広い観点から渉外委員会の仕事であると

水木会長、玉作編集委員、木村庶務幹事らから説得され、お引き受けいたしました。年度当初に方針は立てたものの、渉外委員会の立ち上げに丸一年かかってしまいました。ようやく10月になって高エネ機構平木雅彦氏を渉外副委員長として第一回の渉外委員会を開き今後の方針、タイムテーブルを議論しました。その間、私自身の2013年1月1日スタンフォード大学異動が決まり、渉外幹事を京都大学の松原英一郎先生に交替していただくことになりました。10月27日の評議員会の折に簡単な引継ぎをさせていただきましたが、評議員会でのご発言からも明らかなように、明確なミッションを持って渉外委員会を引っ張っていただけることが分かりとても有難く思います。この一年間、渉外幹事として満足な仕事ができず、皆様にご迷惑ばかりおかけして申し訳ありませんでした。1月からはSLACとスタンフォード大学医学部で引き続き放射光関係の仕事に携わります。日本放射光学会の益々の発展を祈念いたしますとともに、来年以降も日本の放射光研究者の方々といろいろな場面で一緒させていただけることを楽しみにしております。

会計幹事この一年

唯美津木 (分子科学研究所)

平成23年10月1日より、2年間放射光学会の会計幹事を拝命致しました。水木現会長より、これまで放射光学会では女性幹事がおられなかったことから、ぜひとも女性の方に幹事になってほしいと会計幹事を打診された際は、私のように放射光学会に入会してから間もない者がそのような大役が務まるかと大変驚きましたが、学会の先生方やワーズスタッフの方々に教えて頂きながら、何とか最初の1年を終えることができました。庶務幹事の木村さん、ワーズの佐藤さん、西野さんには、大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。

引き継いだ当初は、仕事内容を把握する間もなく、平成23年度の決算作業が始まりました。会費の徴収状況や決算各項目の把握に予想以上の困難を極め、9月から始めたにも関わらず、決算状況の概要が見えてきたのは年末差し迫った時期でした。ふたを開けてみれば、会費徴収状況が芳しくなく、また会計上のシステムの問題もあって、赤字決算で前途多難と思ったことを覚えております。前年の決

算作業は大変でしたが、一連の作業を通じて、学会の会計システムや問題点を把握することができたことは幸いでした。

この後、平成24年の予算立てと並行して、会計上の様々な問題点を取り除き、明瞭な決算ができるように会費の取り扱いやワーズへの手数料、印税等の収入などの各項目を整理し、黒字決算を目指して会計システムの改良を行いました。また、会費の未払い者を減らすべく、頻繁に未払い者の督促や関係者からの伝達をお願いし、評議員や幹事の先生方のご協力もあって、結果として平成24年度は未払い者を減少させ、予算よりも多くの会費収入を確保できました。また、学会誌の2色刷り化による支出削減もあり、平成24年度は無事黒字決算となる見込みです。

平成25年度も健全な会計状況を達成できるよう、現在予算作成を進めております。学会における支出において、会議費の負担が年々増えております。今後も継続して先生方のご協力をお願いできますと幸いです。